

保健所長に求められる ジモ・ミヤ・ラブ力

地元宮崎県を「ごげんかせんといかん」と思い、入庁した次第です。

皆さま、はじめまして

本企画連載も120回を超え、いよいよ我ら、国立保健医療科学の分割前期(基礎)2022年度入学組の登場です。宮崎県入庁からようやく丸1年が経過したばかりのホヤホヤ40代、若手(自称)です。

なぜ宮崎なのか?

てげ(＝とても、超)宮崎ネイティブの私は、「ひよつこ踊り」で有名な日向市の公立小・中学校・県立高校を経て、迷うことなく地元宮崎の宮崎医大医学科を受験しました。当時の宮崎医大は大学の独自性が高く、試験以外の要素も評価

す。私自身、大学勤務の傍らで地域医療に貢献する内科医として10年以上職域・市町村の健康診断(非常勤医師としての兼業業務)に従事しており、生活習慣が変わらないうりピーター受診に、もやもや感が蓄積していました。「てげ(＝ほどほど)でいっちゃがね?」の県民性が加わり、本県は大人も子どもも全国有数の肥満県です。この先、健康寿命全国2位からの転落:で困ります! この課題は行政において私の取り組みたい健康づくり対策の一つになりました。

コロナの最前線

入庁してすぐの2021年12月といえば、新型コロナウイルス感染症が大流行した第7波の入り口。毎月の指定難病審査会業務とともに私に課せられた2022年明けのミッションは、新型コロナウイルス感染症対応II保健所(所長業務)応援でした。鼻咽頭ぬぐい検査は、鼻孔から上咽頭までの距離を想定してスワブを挿入する手順ですが、これには(まさかの)肉眼解剖学実習で頭蓋折半していた経験が役に立ちました。県下の保健所に出向く

ら公衆衛生医師にはなっていないなかつたかもしれません。

研修医、大学院博士課程へ

卒業後は故郷宮崎に貢献する臨床医になろうと本学附属病院の内科ローテートに入りました。内科疾患だけでなく救急疾患を診療する機会もあり、貴重な臨床経験は今でも臨床医としての私のバックグラウンドになっています。その後の大学院時代には基礎医学(解剖学/組織学)講座でお世話になりました。アルバイトで生計を立てつつ、四苦八苦ししながら博士号を取得し、その縁で研究室の助教に採用いただきました。折しも院在籍中(30歳)に結婚し、子どもを授かったこのタイミングでは臨床現場に戻りにくく、事情をくんで正職員として働く機会を下さった研究室には感謝しかありません(2人目を産むことができたのも安定したポジション



宮崎県福祉保健部健康増進課(兼)中央保健所 豊嶋 典世

1999年宮崎医科大学(現宮崎大学)医学部卒業。同附属病院で内科研修を終え2001年同大学院医学研究科博士課程へ進学。2008年より宮崎大学医学部解剖学講座助教、2012年より講師。2021年宮崎県へ入庁、福祉保健部健康増進課主幹・中央保健所業務。2022年より感染症対策課兼務。

で勤務していた要素が大きく、この考え方は少子化施策に反映すべきだと思っています)。医学生への教育はまさに人(＝子)育てで、毎年110人の卒業生を臨床の現場に送り出し、15年近く医療現場の後方支援を続けてきた経験は、今でも人と人とのつながりの礎となっています。

転機と課題

次に私の人生で転機になったのは、内科の先輩(本企画第56回に登場)が大学企画の講演(本人からすると行政医勧誘)に求められたことでした。「保健所長」としてさっそうと登壇した彼女が放った「1億2,000万人の生を衛る医師。」というフレーズにこれだ!と決心し、すぐさま連絡を取りました。

医師不足/医療過疎およびメタボリック予備群の割合増加は、本県にとって恒常的な保健医療課題でになると部下の皆さんに迷惑な上司でしかない。社会医学系専攻医の登録をし、2022年10月から分割後期(応用)に進みました。地域保健法が定める保健所長の資格要件は、専門課程Iの前期課程を修了することですが、厚生労働省通知においても全課程を修了することが望ましいとされています。自分の経験値不足は可能な限り研修によってカバーすべきだ!と考えた次第です。3年間の遠隔研修を通じて自分の研究テーマを解析し、公衆衛生マインドを育てることが重要視されているのだと思います。母子保健・少子化を中心とした次世代のために今の世代が取り組むべき課題にも挑戦したいと考えています。

宮崎で生まれ育った私にとって、宮崎に恩返しするための残りの人生を懸けたミッションは、これから先ずつと住民が健康に暮らしている地域を育てること、でしょうか。未来みやぎ創造プランが目指す、安心と希望を育む「みやぎ新時代」の実現に私が一役買うことができたとしたら、公衆衛生医師冥利に尽きるといつても過言ではないのかもしれません。

ことは同時に私の経験値を上げることができると有用な機会です。疫学調査や特定感染症業務を通じて地域住民のリアルを知ることが可能です。行政と医療現場、地域社会のつながりを学び、これからの公衆衛生活動のヒントを得ることができました。

国立保健医療科学院に入学して

2022年4月、埼玉県和光市で始まった研修生活は人生初の宮崎脱出イベントでした。公衆衛生医師の基本を系統立てて教えてくださったのが専門課程I保健福祉行政管理分野・分割前期研修です。保健?福祉?行政??と羽化したばかりのひよこ状態から前期研修がスタートしました。最初の3週間は各演習を通じて互いを知り、つながるのが目的でした。社会調査法演習での研修生へのアンケート調査において、わが班のテーマは「科学院研修における衣食住」でした。検討を始めた結果、われわれの解析データを待たずして寄宿舍のお風呂の給湯が安定供給されるようになり、利用者のQOL

所長への道と使命

さて、科学院前期研修を終えましたが、公衆衛生医師としての私の実践経験値は明らかに足りていません。このまま半人前で保健所長